

市政トピックス

令和3年度当初予算(案)の概要



(令和3年2月8日財政課)

★予算規模	一般会計 3,297億円(対前年度 44億円増 +1.4%)	44億円増 +1.4%	過去最大の予算規模
★予算編成のポイント	全会計 6,551億円(対前年度 128億円増 +2.0%)	128億円増 +2.0%	

- ◇ポストコロナを見据え「新たな日常」に対応した社会の実現に向けた取組に予算を重点配分
- ◇本市の最重要課題である第3次総合計画の「5大構想」を着実に推進する取組を予算に反映
- ◇激甚化・頻発化する災害への対応として、国土強靱化を強力に推進する取組を予算に反映

・国の「15か月予算」の考え方と連動して、令和2年度2月補正予算と令和3年度当初予算を一体で編成
令和2年度2月補正予算では国の3次補正と連動し、地方創生臨時交付金等を活用して「新たな日常」に対応した取組に約38.1億円を計上。また、社会基盤整備などの取組についても、約27.3億円を計上(合計65.4億円)。令和3年度当初予算と合わせ3,362.4億円を計上。

「新たな日常」への対応(コロナ対策) 【76.0億円】

<p>市民の安全・安心の確保 54.6億円</p> <p>～市民の生命を守ることを最優先～</p> <p>・新型コロナウイルスワクチン接種事業の確実な実施 ・PCR検査・抗原検査等の行政検査自己負担分への支援 28.8億円</p> <p>2月補正 25.8億円</p> <p>・ワクチン接種事業の体制確保と実施 ・本市の医療を支える公的病院等への助成 ・不安を抱える妊婦のPCR検査等の実施</p>	<p>地域経済の活性化と賑わいの創出 分散化社会への対応 16.7億円</p> <p>～市民の日常生活を取り戻す～</p> <p>・JR静岡駅北口「しずチカ」空間活用の社会実験の実施 ・継続的な中小企業への借入利子の支援 8.0億円</p> <p>2月補正 8.7億円</p> <p>・飲食店等の事業継続への支援 ・商店街団体や宿泊事業者団体が実施する事業への支援 ・新たなビジネス創出のための交流・共創の場の提供</p>	<p>ICTなどを活用した社会の効率化 4.7億円</p> <p>・子どもの可能性を開花させる静岡型ICT教育の推進 ・中小企業のデジタル化に向けた支援 1.1億円</p> <p>2月補正 3.6億円</p> <p>・児童生徒1人1台パソコン配備に向けた環境整備 ・同報無線デジタル化の推進 ・ICTを活用した行政手続ガイドの拡充</p>
--	--	--

情報発信力の強化

- ・静岡市のナンバーワン・オンリーワン情報の整理・発信
- ・静岡市の歴史や文化にかかわる情報発信の強化
- ・しずおか中部5市2町の連携による情報発信

SDGs 世界共通のものさし (2016～2030)

SDGsという世界共通のものさしで設定された、2030年のGOALに向けた大きな目標を5大構想に組み込み、世界水準のまちを目指します。

「世界に輝く静岡」の実現

5大構想 【74.7億円】

世界に存在感を示す3つの都心づくり

歴史文化の拠点づくり 44.2億円

- ・歴史文化施設の整備推進
- ・駿府城公園中堀における葵舟の運航
- ・日本遺産「弥次さん喜多さん、駿州の旅」街道観光の推進

海洋文化の拠点づくり 6.3億円

- ・清水港海づり公園の整備推進
- ・清水港からの農産物輸出促進への支援
- ・「新興津ビーチパーク」アクセス道の整備促進

教育文化の拠点づくり 2.0億円

- ・「こ・こ・に」を通じたまちづくりを担う人材の養成
- ・賑わいのある草薙駅周辺エリアに向けたマネジメント支援
- ・東京2020と連動した「東静岡アート&スポーツツトリハ」の活用

生活の質を高める2つの仕組づくり

「健康長寿のまち」の推進 15.0億円

- ・「自宅ですつと」を支える地域包括ケアシステムの充実
- ・認知症ケア推進センターの活用と認知症総合支援の推進
- ・脳梗塞予防のための医療プロジェクトへの助成

「まちは劇場」の推進 7.2億円

- ・「まちは劇場」のブランディングとプロモーション
- ・春夏秋冬フェスティバルが楽しめるまちの実現
- ・日常で「わくわくドキドキ」を感じる仕掛けづくり

国土強靱化(防災・減災、社会基盤整備) 【146.5億円】

<p>防災・減災 4.4億円</p> <p>・自主防災組織の防災資機材等の購入に対する支援 ・建物の耐震化に対する支援 4.2億円</p> <p>2月補正 (0.2億円)</p> <p>・同報無線デジタル化の推進(再掲)</p>	<p>社会基盤整備 142.1億円</p> <p>・浸水対策推進プランに基づく河川改修 ・道路ネットワークの整備 114.8億円</p> <p>2月補正 27.3億円</p> <p>・道路の新設改良(清水富士宮線)ほか</p>
---	--

行雲流水

「くらしよい地域づくり」のために 未来を拓く!

令和3年春号



*『行雲流水』は留まらず自然に身をおくこと。小学校卒業時に校長先生からもらった言葉です。

静岡市議会議員 尾崎行雄

ごあいさつ

謹啓 日頃より皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より尾崎行雄の活動に温かいご支援とご理解を賜り心より感謝申し上げます。

令和の時代を迎え、早くも1年10ヶ月が経ちました。新しい時代の幕開けに意気揚々とスタートして、東京オリンピック・パラリンピックをはじめ経済効果の期待が高まる一方でありましたが、1年も経たずして新型コロナウイルス感染症の蔓延という世界的な危機に陥り社会は混乱いたしました。しかし、コロナ禍の中でも対応を熱心に行ってくださっている医療従事者の皆様の献身的な処置や、暮らし方を変える努力をしている市民の皆様の自律精神のもとに、感染状況も少しずつではありますが落ち着きを見せているところであります。今後はワクチン接種も順次進めて感染の拡大を封じ込めていくことと思いますが、今一度気を引き締めて皆さんで協力していきましょう。

私も議会としても、現状のコロナ禍を乗り切る政策はもちろん、コロナと共に(ウィズコロナ)経済活動を続ける政策や、コロナ後に(アフターコロナ)経済を復活させる政策を考えて、状況ごとに手を打っていきます。「コロ

ナに感染しない、感染させない」、「重症化を防ぎ、年長者を守る」をキーワードに重症者が増えないように、医療従事者はじめ対応してくださっている方々が疲弊しないように、感染者が差別や偏見を受けないように、オール静岡で事態を克服していきたいと思えます。

尾崎行雄も一期目4年の満期を迎え、これまでの環境で学び得た知識をこれからの議会活動および地域活動にしっかりと活かし、皆様の暮らしに目を向けて「くらしよい地域づくり」を共に進めることと、これからの市政運営を注視してスピードある行政執行を後押しできるように日々の活動に励んでまいります。皆様からお寄せいただく声に耳を傾け、一つでも多く形づくよう努力いたしますので、これからもご指導を賜りますようお願い申し上げます。

皆様方のご健康、ご多幸をご祈念申し上げます。

謹白

尾崎ゆきお プロフィール

静岡高校96期卒 サッカー部(インターハイ県3位)
山梨大学工学部 無機合成化学専攻
静岡市議会議員・経歴→
1期目4年で常任委員会副委員長を3箇年歴任
都市建設副委員長、市民環境教育副委員長、
総務副委員長(現在)
静岡市グランドゴルフ協会・会長、静岡市消防団・副団長、
静岡ライオンズクラブ会員

尾崎ゆきお 後援会・新事務所

住所:〒421-1215 静岡市葵区羽鳥4丁目1-19 (JA静岡市農科支店(羽鳥)の横で、わらべ和菓子店の並びです)

TEL:054-277-9360 FAX:054-277-9366

尾崎行雄 オフィシャル サイトは「こちら」

新型コロナ 静岡市 なんでも相談ダイヤル 0570-08-0567 毎日9:00～20:00

静岡市LINE公式アカウントがスタートしています。ぜひ、登録してください。

友だち追加

市議会トピックス

令和元年度および令和2年度の議会質問と答弁内容をご一読ください。

令和元年 9月定例会・総括質問



テーマ1. 『災害への備えについて』

(1) 頻発する風水害への対応について

- ①避難情報の発表と実際の住民避難の状況、および避難所開設の手順はどのようなものであるか？
- ②住民の主体的な避難行動を促すためにどのような取組を行っているか？

(2) 福祉施設等における防災対策について

- ①福祉施設の避難確保計画の作成状況はどのようになっているのか？
- ②地域と福祉施設との連携による取組事例にはどのようなものがあるか？

≫ 答弁の抜粋

【副市長】市内全域の洪水および土砂災害ハザードマップを最新のものに更新を進め、地域にどんな災害リスクがあるのか確認できるようにしている。また、住民それぞれが大雨になってから避難のタイミングを判断するのではなく、事前に検討しておくためのマイ・タイムラインの普及啓発と、避難に必要な情報をまとめた災害・避難カードを作成し、住民の主体的避難と防災意識の向上を図っている。

【危機管理統括監】水防法及び土砂災害防止法の改正を受け、施設管理者に避難確保計画の作成と報告が義務化された。市内では861施設が対象となり、そのうち657施設（76.3%）が作成済である。今後、全対象施設が計画作成することと実効性を確保するための訓練を推進していく。

テーマ2. 『協働のまちづくりについて』

(1) 市民協働のまちづくりへの参加促進について

- ①協働事業を推進するための市民活動団体への支援制度にはどのようなものがあるか？
- ②協働のまちづくりを担う高校生人材の育成状況はどのようなになっているのか？

(2) 地域コミュニティへの支援について

- ①自治会・町内会への加入率と加入促進事業の取組状況はどのようになっているか？

- ②市の窓口としての区役所は自治会とどのように関わっているか？

≫ 答弁の抜粋

【市民局長】高校生は協働のまちづくりを推進する上で重要なパートナーと考え、若者に社会参加を促すための取組として高校生まちづくりスクールを開講した。地域に目を向ける機会の少ない高校生に、地域社会のために行動していきたいという意識を持ってもらえ、中にはビジネスプランの実現に向けて取り組み始めた受講生もあり、主体的にまちづくりに参加する意欲が生まれている。

令和元年 11月定例会・総括質問



テーマ1. 『野生鳥獣の被害対策について』

(1) 農作物の野生鳥獣による被害への対応について

- ①野生鳥獣の被害に対し、どのように取組んでいるか？

(2) 野生イノシシの豚コレラ（豚熱）感染について

- ①野生イノシシの対策と死亡個体・捕獲個体の処分はどのようにしているのか？
- ②猟友会等の捕獲従事者の負担が大きいのと思うが、どのように考えているのか？

≫ 答弁の抜粋

【市長】本市ではこれまで鳥獣害には、農地を柵で囲う防除、動物が出没しにくい環境を作る棲み分け、そして加害鳥獣を減らす捕獲の三本柱で対策を講じてきた。専門職員による集落診断や地域での勉強会をはじめ、外部講師を招聘した研修も実施している。効果はこの10年間で被害額、被害面積ともに3分の1以下になっている。これからは鳥獣被害をさらに減らしていくために防除に力を入れていく。防除には個別型、団体型、県との共同事業である地域一体型とあるが、特に効率的で費用対効果の高い団体型に着目して団体での防護柵の設置に対する補助制度の一層の拡充をしていき、持続可能な農業のために鳥獣被害の防止・抑制に努めていく。

テーマ2. 『森林環境譲与税について』

(1) 森林環境譲与税の用途について

- ①森林環境譲与税を活用した川上である木材生産現場での事業はどのようなものがあるか？

- ②森林環境教育の内容はどのようなものであるか？

(2) オクシズ材（静岡県産材）の利用促進について

- ①オクシズ材の利用促進として川下である木材販売の取組状況はどのようなものであるか？

- ②今後はオクシズ材をどのように普及させていくのか？

≫ 答弁の抜粋

【農林水産統括監】森林環境譲与税の活用により、森林経営管理法に基づく間伐などの森林整備、植林・間伐等を対象とした造林補助事業、林道開設や改良の整備事業、安全対策のための伐採などの資格取得補助、担い手育成のための環境教育などの啓発事業を行っている。森林環境教育では、小学校においてICTを活用して森林とリアルタイムにつながる出張林業教室などを開催している。オクシズ材の利用促進については、静岡ぬくもり空間推進事業として保育園等を対象に建築木材を補助してきたが、今後は商業施設も新たに加えて制度拡充を図る。また、まちづくりにおいても木を身近に感じられるように公共的空間の木質化を進めるとともに、林業、木材業界と連携しながら首都圏へのオクシズ材の需要拡大を図っていく。

令和2年 11月定例会・総括質問



テーマ1. 『オクシズの環境保全と地域振興について』

(1) オクシズの森林と清流の保全について

- ①オクシズの森林の開発について市長はどのような認識しているか？
- ②オクシズの開発で、土砂災害防止のため静岡県土砂採取等規制条例でどのような指導をしているか？
- ③清流保全に向けた、安倍川、藁科川、興津川の水質の監視体制はどうか？

(2) オクシズ地域の振興策について

- ①新型コロナウイルス感染症の影響によるオクシズのイベントや交流施設の状況はどうか？
- ②コロナウイルスの影響への対応や、光回線設備の敷設により、オクシズの移住施策やプロモーション等をどのように変えて進めていくのか？

≫ 答弁の抜粋

【市長】本市では広大な中山間地域を擁し、SDGsの目標11

「住み続けられるまちづくり」を強く意識して市政運営を進めている。目下新型コロナウイルス感染症をきっかけに暮らし方や働き方を見直す動きが活発化してきて、中山間地域に追い風が吹いていると感じる。テレワークやワーケーションなどが今後普及し自然豊かな場所に住みながら働くことが可能になることや、病院が遠くてもオンラインで受診が出来ることや、デジタル化の進展により可能となり、オクシズ地域の注目度が高まっている。またオクシズの森林はかけがえのない地域資源であり、国と県との行政連携、産業界との官民連携をもって、100年先の子や孫の代まで森の恵みを持続させ住み続けられる地域にしていく。3次総合計画に掲げた5大構想に加え、次期総合計画には森の恵みを活かしたまちづくりとして、議員より提言いただいた「森林文化都市構想」を深く研究し、アフターコロナの時代、経済と環境を両立させて社会問題を解決していくことが重要と考えている。

【農林水産統括監】新型コロナウイルスの影響により人々の働き方や暮らし方が見直しされ始め、地方への移住の関心が高まり、中山間地域空き家情報バンクへの問い合わせが大幅に増加している。今回の光回線整備により、テレワークやIT関連の起業等といったオクシズでの働き方の可能性が広がる。コロナ禍における状況の変化を踏まえ、オクシズへの移住者、交流人口、関係人口の増加につながる施策を推進する。

テーマ2. 『学校給食とお茶の愛飲促進について』

(1) 小中学校の学校給食について

- ①日本一おいしい学校給食を目指す「わくわく給食」の検証はどのようなものであるか？
- ②給食における地産地消の状況と、地域の食材を活かした食育はどのように行われているのか？
- ③学校給食における和食や和菓子の提供の状況はどうか？

(2) 学校でのお茶の愛飲促進について

- ①子どもたちへのお茶の愛飲促進に関する今年度の取組状況はどうか？
- ②お茶の効能を考えて、今後は子どもたちへのお茶の愛飲促進にどのように取組んでいくのか？

≫ 答弁の抜粋

【教育局長】通常の給食に1人当たり300円程の食材費を加える「わくわく給食」は、9割以上の子どもたちから「給食が楽しみ」という意見が寄せられた。また地産地消の取組としては、ふるさと給食の日を設け品目数ベースで44.6%の地産食材率となっている。今後もオクシズ・しずまへの旬の食材を使い、季節や風土と食のかかわりについて食育に生かしていく。

【農林水産統括監】学校で市内のお茶を飲む環境を整えるために、夏休み明けから小中学校5校に給茶機を設置し今年度中に更に2校増加の予定である。また茶業関係団体との連携により小中学校の全児童生徒にお茶とお茶教材を贈呈して静岡県お茶の日に家庭で飲んでもらう事業を実施した。抗菌機能によるお茶の効能についても学びを深めるとともに、お茶の生産者の思いも学べるお茶育に力を入れている。子どもたちが日常的にお茶に親しみ地元のお茶に誇りを持つよう郷土愛の醸成につなげていく。